

赤岳を登山して

2017 年 6 月 27～28 日

我部山民樹

八ヶ岳連峰は学生時代に縦走予定で登山したことが有るが、台風に会い、どこも登頂できずに止む無く下山した経験が有る。箱庭に立ち寄った記憶にあるが、下山するのに必死だったので、後は覚えていない。兎に角、登頂は出来なかった。それ以来、一度は登山したいと思っていた。八ヶ岳とは頂上が八つあるということでは無く、たくさんあるという意味だそう。赤岳は、その最高峰であり、日本百名山の一つである。嬉しいことに、千葉発のクラブツーリズムの登山ツアーを見つけたので、申し込む。(ほとんどのツアーは新宿発なので、早朝の待ち合わせ時間に行くのが大変である。前泊せざるを得ない時もある。)



6 月 27 日

千葉駅 7 ; 20 発のバスにて出発

・津田沼駅にて総勢 11 名となる。男性 4 名、女性 7 名である。平均年齢は 70 歳弱か？それなら自分は平均年齢か？

バスにて美濃戸口（標高 1490m）まで行き、そこから登る。途中赤岳山荘（標高 1720m？）にて昼食に、名物の肉うどんを食す。確かにうまい。麺は恐らく、郷里のカトキチの冷凍うどんだろうと思う。



・イワカガミ、ベニバナイチゴ、蓮華つつじ、山つつじ等の高山植物が花盛りだ。
ミヤマダイコンソウ、クルマユリの開花は未だだ。



・赤岳鉱泉に宿泊する（標高 2220m）。山荘には珍しく、温泉がある。最高高度の温泉？石鹸は使えなく、汗を流すだけだが、それでも汗をかいた後の温泉は格別である。いつも山で思うが、普段何気なく入っている風呂の有難さが分る。

・夕食まで、ビール、ワインを飲みながら、ガイド、女性添乗員、数人の登山客と会話を楽しむ。登山の話が中心だが、あまり記憶が無い。

・夕食には登山者間で有名なステーキ料理が出る。恐らく山小屋でステーキが出るのはここだけだろう。大体はカレーライス、おでんや山菜料理だ。ステーキの噂を聞き、楽しみにしていたが、思ったより肉が固い。アメリカ産の肉か？アメリカで食した硬いステーキを思い出す。歯を少し痛めていた時、あまりの硬さに食べることが出来なかったことを思い出す。

・近くにいた女性 3 名のグループの会話が聞こえてきた。市原市在住と分かった。小生も‘市原です。’と言うと、団地名を聞いてくる。‘桜台団地’と返答したら、驚いたようで、一人が‘自分は君塚だが、あの人は桜台です。’と別の女

性を指さす。さらに‘丁目も判った。もう一人は若宮と分かる。お互いに名乗るのは止めることにする。知っているところかで誰かにしゃべるので、知らない方が良いのだ。

更に、彼女たちは地元のハイキングの会に所属している。’と。以前、北海道の大雪山（標高 2290m で日本百名山）に登ったことが有る。‘と。

年齢を聞かれたので‘70 歳’と言うと‘若い’と。(実年齢より若そうに見えるという意味か、それとも、ハイキングの会の年齢層より若いという意味か？確認しなかったが、後者か？) さらに‘入会しませんか’と誘われる。

‘今後、年齢を重ねて百名山の登山が厳しくなっても、登山は続けたいので、その時には入るかもしれない。’と回答する。

後日の為に、会の世話役？の方を教えてもらおう。近所の方だ。以前から、読み方が分からなかった方だ。ネットにホームページがあると聞いたので、帰宅後、調べたが、分らず。正式名称を覚えていないからだろう。

ガイドが‘翌日の天気予報は曇りだが、雨具を着用することは覚悟してほしい。’と説明。

今朝はバスの中で‘自分は晴れ男なので、好天を期待してもらってもよいと言っていた。’のだが、天気予報の雨の確立が高くなったのだろう。

6 月 28 日

・やはり雨である。ヘルメットをかぶり、6 時に出発。雨の中をもくもくと登る。

誰もほとんどしゃべらない。登頂前に雨が止む。

・赤岳に登頂（標高 2899m）。登頂の証拠写真を撮影する。残念ながら、周辺の山々は見えない。



赤岳山頂にて

・下山中に絶滅危惧種の布袋蘭(ホテイラン)に出会う。見るのは初めてである。柵で囲って保護している。ガイドが‘人が持ち帰ること、またカモシカが食して

しまうのが絶滅危惧の原因なので、保護している。’と説明。



布袋蘭

- ・下山の途中、行者小屋（標高 2350m）で名物のカレーライスを食べ。なかなか、美味である。どこでもカレーは無難だが、ここのカレーは平均以上だ。
- ・標高 2000m位のところで、道の上方に日本カモシカを見つける。可成り太っているのが皆驚く。シカは人に馴れている所為か、我々を見ても驚く様子は無い。こちらをじっくりと見渡した後、ゆうゆうと立ち去る。



二ホンカモシカ

・下山後、立ち止まり湯に立ち寄る。風呂で疲れた身体を休めた後に、ビールを飲んで、そばを食べるのを下山後の楽しみにしているが、残念ながら、そばの時間は終わっている。毎度のことであるが、下山後のビールの味は格別である。

15 時過ぎに出発。津田沼駅に 18:30 に到着。総武線とバスを乗り継いで家路を急ぐ。(2018 年 12 月画像取入れ)

以上